

## 問題解決行動と self-efficacy, および 時間的展望との関連について

林 潔 瀧 本 孝 雄\*

### 目 的

カウンセリングを、来談者の問題解決行動への援助として理解することができる。従ってカウンセラーは、来談者の問題解決のための意志決定に対する援助者 (helper) である (Nelson-Jones, 1982)。Brammer (1978, p.19) は援助技能における積極的行動に行動変革 (behavior changing) とあわせて、問題解決、意志決定 (problem-solving and decision making) の条件を指摘する。

また来談者の認知的水準の問題の処置を治療とは区別して問題解決の名称を与える傾向もある (Platt & Duome, 1983, p.1)<sup>註1,2)</sup>。臨床的問題として、効果的問題解決モデル (Krumboltz & Thoresen, 1969)、問題解決行動評価における認知的変数 (Heppner, et al, 1983)、問題解決と学習習慣および成績 (Elliott, et al, 1990)、キャンパスの援助機関の利用と学生の問題解決 (Neal & Heppner, 1986)、アルコール患者と正常群の問題解決 (Larson & Heppner, 1989)、効果的、非効果的問題解決者と悩み (Nezu, 1985)、意志決定と問題解決行動の評価 (Phillips, et al, 1984)、ストレスによる抑うつ処置の調節機能としての問題解決 (Nezu & Ronan, 1988)、自殺企図者 (Schotte, et al, 1990)、自殺念慮者 (Dixon, et al, 1991) の問題解決行動の評価、ケース処置における問題解決の評価 (Berven, 1980)、Gestalt 療法と問題解決処置 (認知行動療法) の比較 (Clarke & Greenburg, 1986)、精神分裂病患者と家族の問題解決様式生活技能訓練 (Lieberman & Mueser, 福田, 他, 訳, 1985)、またいくつかの問題解決訓練のプログラム (Meichenbaum, 1985, p.105-109) が紹介されている。

問題解決は援助行動の機能の一つである。Gotlib (1978) は非公式の援助行動のカテゴリーとして、情緒的支持行動、間接的個人的影響、環境への働きかけとあわせて、問題解決行動をとりあげる。

本研究では、この問題解決にかかわりをもつとみられる2つの概念、すなわち self-efficacy と時間的展望との関連について検討する。

社会的問題解決の予測要因として Larson ら (1990) は、積極的な対処ストラテジーとして、一般的な問題解決についての self-efficacy の条件をあげる。self-efficacy についての信念と学業成績との関連については Multon ら (1991) の報告がみられる。

Self-efficacy は個々の人間の考えや判断、評価の働きを意味し、自信や意欲の効能、達成や対処への可能感、自己遂行可能感、効力感と呼ばれるものである (祐宗, 他, 1985, p.104)。このことは、例えば主観的な健康感が高い self-efficacy をもたらすという報告

\*獨協大学

もある(安藤, 坂野, 1990)。もし self-efficacy を有能感としてとらえると, これは内発的動機づけに影響する感情でもある(桜井, 1990, p.12)。

行動, 感情, モラールも個人の時間的展望に依存する(Lewin, 末永訳, 1954, p.135)。また積極的な時間的展望は, 高いモラールの基礎的要素の一つである(Lewin, op cit. p.155)。例えば, 自殺行動は時間的展望の喪失であり, 心理療法とは時間的展望修正の営み(勝俣, 1990)としてもとらえられる。

すなわち, 本研究では次の仮説を検討することが目的である。

1. 問題解決傾向と self-efficacy の傾向とは関連があるであろう。
2. 問題解決傾向と時間的展望の傾向とは関連があるであろう。
3. Self-efficacy の傾向と時間的展望の傾向とは関連があるであろう。

## 方 法

先の仮説を検討するために, 次の手続きを行った。

(1) 問題解決についての質問紙は, Heppner らの Problem-Solving Inventory を項目分析をして作成した質問紙(林, 1985)である。元質問紙は35項目から構成されているが, 項目分析の結果2項目が除外されたため33項目を用いた。これは5肢選択法の質問紙である<sup>注3)</sup>。

(2) Self-efficacy についての質問紙は, 坂野と東条(1986)による。これは16項目からなる2肢選択法の質問紙である。

(3) 時間的展望についての質問紙は, 白井(1989)による。これは20項目からなる5肢選択法の質問紙である<sup>注4)</sup>。

被験者は首都圏の国立大学1校の学生男子106人, 女子115人である(実施時期:1990年6月)。

## 結果と考察

これらの被験者の問題解決の質問紙の結果は, Table 1のとおりである。

また self-efficacy と時間的展望についての得点は Table 2 のとおりである。

問題解決の質問紙の各項目と全体の得点と, self-efficacy および時間的展望の得点の相関係数を算出した。この結果は Table 3 のとおりである。

Self-efficacy と特に相関のみられる項目は男子では, 32. [問題にぶつかった時, 私はその事態をつかむことができているかどうか自信がない], 3. [問題解決への最初の取り組みに失敗した時, それからあとうまくやっていけるかどうか不安になる], 9. [問題にぶつかって, 大変だと思うことはあっても, 私は大体の問題を解決していけると思う], 女子では, 25. [新しい, むずかしい問題を解決する自分の能力を信じている], 11. [私は, 自分が判断したことについて, あとからそれでよかったと思う], 9. [前出]であった。

すなわち, 男子の場合は, 先の報告の, II. 見通しの因子(問題解決についての見通しを得ているという意識についての因子), III. 情緒的反応の因子(問題に当面することによって生じる, 不安感などのような, 情緒的反応についての因子)に対応する項目が, 女子

**Table 1** 問題解決の各項目の得点

項目	男子		女子		項目	男子		女子	
	M	SD	M	SD		M	SD	M	SD
1	3.97	1.16	3.95	1.17	18	3.63	1.14	3.59	1.06
2	3.13	1.07	2.93	.98	19	3.70	1.16	3.64	1.10
3	2.34	1.30	2.30	1.11	20	3.85	1.02	4.04	.94
4	3.42	1.35	3.39	1.16	21	3.97	1.15	3.72	1.23
5	3.16	1.13	2.82	1.05	22	3.27	1.04	3.37	1.07
6	3.52	1.22	3.50	1.23	23	2.83	1.14	2.90	1.20
7	3.49	1.18	3.90	1.11	24	3.18	1.26	3.02	1.29
8	3.65	1.08	3.94	1.06	25	3.30	1.12	3.15	1.13
9	3.48	1.16	3.94	1.06	26	3.20	1.21	3.04	1.07
10	3.41	1.11	3.37	1.18	27	3.07	1.19	3.16	1.09
11	3.15	.99	3.23	1.03	28	3.41	1.13	3.62	.97
12	3.59	1.24	3.58	1.24	29	3.45	1.07	3.42	1.02
13	3.28	1.34	2.99	1.26	30	2.50	1.18	2.52	1.16
14	3.56	1.26	3.58	1.10	31	2.29	.99	2.84	.92
15	3.69	1.15	3.65	1.12	32	3.15	1.18	3.02	1.06
16	3.50	1.14	3.26	1.13	33	3.93	1.00	3.68	.98
17	3.59	1.19	3.54	1.14	合計	111.57	17.61	110.04	16.38

**Table 2** Self-efficacy と時間的展望の得点

	男子		女子	
	M	SD	M	SD
Self-efficacy	7.02	3.92	7.06	3.58
時間的展望	64.28	24.70	66.68	13.60

の場合は、I.情緒的反応と問題への取り組みの因子（問題の当面することによって生じる情緒的反応と、問題処理の基本姿勢についての因子）に対応する項目が特に取り上げられている。

時間的展望と特に相関がみられる項目は、男子では、9. [前出], 32. [前出], 6. [問題にぶつかった時に、とることができる多くの可能性について、徹底的に考えてみる], 女子では、22. [新しい事態にぶつかった時、私はそこで起こるかもしれない問題を解決できていると思っている], 11. [前出], 32. [前出]であった。すなわち、男子では、II.見通しの因子、女子では、I.情緒的反応と見通しの因子に対応する項目が特にとりあげられている。

また self-efficacy の得点と時間的展望の得点との間には、男子は.437、女子は.649の相関係数が算出された。自己効力感と将来への展望との条件が相乗的に関与するものと思われる。

問題解決の傾向と self-efficacy との間には、男子.542と女子.412の相関がみられた。従って、問題解決と self-efficacy とは関係があるであろうという仮説1は成立したといえる。

また問題解決と時間的展望の得点との間には、男子.294と女子.375の相関係数が算出さ

Table 3 問題解決と self-efficacy, 時間的展望との相関

項目	self-efficacy		時間的展望		項目	self-efficacy		時間的展望	
	男子	女子	男子	女子		男子	女子	男子	女子
1	.110	-.059	-.029	.015	18	.010	-.083	-.133	-.029
2	.426	.355	.206	.247	19	.080	.172	-.003	.210
3	.601	.299	.281	.331	20	.117	-.125	.006	-.101
4	-.092	-.147	-.055	-.074	21	.430	.301	.274	.363
5	.312	.405	.059	.276	22	.475	.474	.247	.442
6	.333	.203	.312	.125	23	.429	.259	.174	.243
7	.171	.089	.120	.137	24	.212	.172	.129	.248
8	.249	.219	.091	.161	25	.520	.543	.305	.538
9	.590	.487	.392	.347	26	.312	.471	.329	.323
10	.320	.180	.263	.180	27	.081	.129	-.071	.178
11	.211	.527	.218	.422	28	.201	.208	.199	.148
12	.082	-.051	.129	-.014	29	.165	.191	.184	.031
13	.431	.244	.251	.272	30	.295	.198	.126	.070
14	-.146	-.042	-.147	-.139	31	.265	.352	.297	.267
15	-.070	.079	.003	.094	32	.671	.471	.327	.410
16	.120	.117	.025	.070	33	.302	.072	.256	.058
17	.109	-.115	.116	-.180	合計	.542	.412	.294	.375

れた。これは男子の場合には低いものであったが、仮説2もある程度は成立したということがいえよう。そして先にあげた結果から self-efficacy と時間的展望との間には関連があるであろうという仮説も成立した。

すなわち、さまざまな問題解決行動についての臨床的援助の場合も、self-efficacy についての気づきと訓練が意味をもつと思われる。

そして個人の時間的展望はその人の問題解決行動を促進し、また抑制する条件としても理解されよう。もちろん時間的展望には、単純に未来を信じるといふものから、いわばカオスの中で意志をもって未来を望むという姿勢までさまざまである。そしてここで特に意味を持つものは、後者に近い形で未来を望むその人の認知様式であろう。

時間的展望の重要性は希望と呼ばれるものの役割に通じる (Lewin, op cit) とすれば、このことは、問題解決行動における希望の役割と置き換えることもできよう。そしてこれは、自分にかかわる出来事を統制不能/対処不能とは認知しないという態度を意味する。そうであるとすれば、来談者の時間的展望に対する援助として、認知療法（あるいは帰属療法）における、原因帰属の修正の試みが、来談者の時間的展望の認知の修正についての一つの援助の方法になる可能性がある。Thorne (1948, 伊東訳) は、問題解決行動における personality の知的な資力の重要性を指摘している。このような態度も、この知的な資質の構成要因と考えることができよう。

来談者の問題解決行動に対する援助は、問題中心の取り組みとあわせて、このような視点からの取り組みもまた意味をもつものと思われる。

注)

1) 認知論では意志決定 (decision-making), 学習理論では問題解決 (problem-solving) の用語が用いられる傾向がある。

なお, 来談者の要求に関連したカウンセラーの方法についての意志決定モデルとして Nelson-Jones (1988) は次のように提示している。

	来談者の要求	カウンセラーの方法
すべての来談者	自己価値 理解への要求	基本的共感 最初の査定
個々の来談者 への強調点	経験している感情を理解する力 不安の特定の領域 一例, フォビア 誤った思考 困難との関係 学習上の困難 職業選択, 他 他の要素 一例, 情報	可能な基本的共感が十分与えられること, もし不十分であれば付加的介入が含まれる 基本的行動的方法 思考に中心をおく介入 関係に中心をおいた介入 一例, 技能訓練 職業選択の介入 必要に応じた他の介入 一例, グループ

2) また対処行動 (coping behavior) の用語も用いられる。対処行動は人間の効率性の源といえる (Blocher, 神保, 中西訳, 1972)。

3) 質問項目については林 (1985) を参照。

4) 時間的展望尺度のみ使用

#### 参 考 文 献

- 安藤孝敏 坂野雄二 1990 主観的健康感が不安への対処行動へ及ぼす影響 健康心理学研究 3, 2, 1-11
- 東 敦子 1991 社会的問題解決における自己認知と他者認知が対人行動に及ぼす影響 日本心理学会第55回大会発表論文集510
- Antaki, C. & Brewin, C. 1982 *Attribution and personality change*. N. Y.: Academic Press. (細田和雅 古川裕一監訳 1992 帰属理論と臨床と教育への応用 ナカニシヤ出版)
- Bandura, A. 1971 *Social learning theory*. General Learning corporation (原野広太郎 福島脩美訳 1974 人間行動の形成と自己制御 金子書房)
- Berven, N. L., & Scofield, M. E. 1980 Evaluation of clinical problem solving skills through standerized case-management simulation. *J. of Counseling Psychology, 27, 1, 199-208*
- Blocher, D. H. 1966 *Developmental counseling*. N. Y.: Ronald Press Co. (神保信一 中西信男訳 1972 開発的カウンセリング 国土社)
- Brammer, L. M. 1978 *The helping relationship*. Englwood Cliffs, N. J.: Prentice Hall
- Clarke, K. M., & Greenburg, L. S. 1986 Differential effects the Gestalt two chair intervention and problem solving in resolving decisional conflict. *J. of Counseling Psychology, 33, 1, 11-15*
- Dixon, W. A., Heppner, P. P., & Anderson 1991 Problem-solving appraisal, strees, hopelessness, and suicide ideation in college population. *J. of Counseling. Psychology., 38, 1, 51-56*
- Elliot, T. R., Godshall, F., Shrout, J. R., & Witty, T. E. 1990 Problem-solving appraisal, self-reported study habits, and performance of academically at-risk college students. *J. of Counseling Psychology, 37, 2, 203-207*
- 淵上克義 1990 進路指導の社会心理学的研究 一高等学校での教師-生徒の相互作用と時間的展望の関係 日本教育心理学会館第32回総会発表論文集285
- Gotlib, B. H. 1978 The development and application of a Classification scheme of in-formal helping behaviors. *Canadian J. of Behavioural Science, 10, 2, 105-115*

- Hepner, P. P. 1987 An information-processing approach of personal problem solving. *The Counseling Psychologist*, 15, 3, 371-447
- 林 潔 1985 問題解決についての学生の態度と訓練 相談学研究 17, 2, 73-82
- 林 潔 1991 問題解決と Self-efficacy および時間的展望の関係について 日本教育心理学会第33回総会発表論文集 797-798
- Hepner, P. P. & Peterson, C. H. 1982 The development and implications of a personal problem-solving inventory. *J. of Counseling Psychology*, 29, 1, 66-7
- Hepner, P. P., Reeder, B. L., & Larson, L. M. 3 Cognitive variables associated with personal problem-solving appraisal: implication for counseling. *J. of Counseling Psychology*, 30, 4, 537-545
- 五十嵐 敦 1990 青年期の時間的展望 カウンセリング研究 23, 2, 133-141
- 小宮山 要 1977 青年の時間的展望に関する研究 東北大学博士論文
- 勝俣暎史 1990 自殺未遂をくり返す女子大学生の時間的展望テスト (TPT) 所見 熊本大学教育学部 (人文科学) 紀要 39, 1-19
- 神田信彦 1990 子どもの Locus of Control に関する研究の動向 立教大学心理学科研究年報 33, 21-31
- Krumboltz, J. D., & Thoresen, C. E. 1969 *Behavioral counseling: cases and techniques*. N. Y.: Holt Reinhart and Winston, Inc. (沢田慶輔 中沢次郎訳 1974 行動カウンセリング 誠信書房)
- 栗原泰治郎 1960 人間理解への途 表現社
- Larson, L. M. & Hepner, P. P. 1989 Problem-solving appraisal in an alcoholic population. *J. of Counseling Psychology*, 36, 1, 17-23
- Larson, L. M., Piersel, W. C., Imao, R. A. K., & Allen, S. 1990 Significant predictors of problem-solving appraisal. *J. of Couns. Psychology*, 37, 4, 482-490
- Lazarus, R. S. & Folkman, S. 1984 *Stress, appraisal and coping*. N. Y.: Springer Publishing Co., Inc. (本明寛 春木豊 織田正美訳 1991 ストレスの心理学 実務教育出版)
- Lewin, K. 1942 Time perspective and morale. Watson, G. ed., *Civilian Morale*. Boston: Houghton Mifflin (時間的展望とモラル 末永俊郎訳 1954 社会的葛藤の解決 創元社)
- Lieberman, R. P. Mueser, K. T., 福田正人 中込和幸 丹波真一 85 精神分裂病の認知行動療法 臨床精神医学 14, 6, 913-924
- McNeil, D. 1987 *Psycholinguistics: A new approach*. N. Y.: Harper & Row (鹿取廣人 重野 純 中越佐智子 淵淵 淳訳 1990 心理言語学 サイエンス社)
- Meichenbaum, D. 1985 *Stress inoculation training*. Pergamon Press. (上里一郎監訳 1989 ストレス免疫訓練 岩崎学術出版社)
- Multon, K. D., Brown, S. D. & Lent, R. W. 1991 Relation of self-efficacy beliefs to academic outcomes. *J. of Counseling Psychology*, 38, 1, 30-38
- Neal, G. W., & Hepner, P. P. 1986 Problem-solving self-appraisal, awareness, and utilization campus helping resources. *J. of Counseling Psychology*, 33, 1, 39-44
- Nelson-Jones, R. 1982 The counsellor as decision-maker. *British J. of Guidance & Counselling*, 10, 2, 113-125
- Nezu, A. 1985 Differences in psychological distress between effective and ineffective problem solvers. *J. of Counseling Psychology*, 31, 1, 135-138
- Nezu, & Ronan, G. F. 1988 Social problem solving as moderator of stress-related depressive symptoms. *J. of Counseling Psychology*, 35, 2, 134-138
- Phillips, S. D., Paziienza, N. J., & Ferrin, H. H. 1984 Decision-making styles and problem-solving appraisal. *J. of Counseling Psychology*, 31, 4, 497-502
- Platt, J. J. & Duome, M. 1983 *Training in interpersonal problem solving skills*. Philadelphia, Pa: Dept. of Medical Health Sciences, Hahnemann University
- 坂野雄二 1989 一般性セルフ・エフィカシー尺度の妥当性の研究 人間科学研究 (早稲田大学) 2, 1, 91-98
- 坂野雄二 1990 認知療法とコンストラクティヴィズム 心の臨床ア・ラ・カルト 9, 2, 35-38
- 坂野雄二 行動療法から認知的介入へ 季刊精神療法 14, 2, 17-30
- 坂野雄二 1988 獲得された無力感の解消に及ぼす self-efficacy の効果 行動療法研究 13,

2, 143-153

坂野雄二 東条光彦 1986 一般性セルフ・エフィカシー尺度作成の試み 行動療法研究 12, 1, 73-82

桜井茂男 1990 内発的動機づけのメカニズム 風間書房

佐々木和義 1988 観念失行症患者の系列行為の再学習に対する認知的行動療法 行動療法研究 14, 1, 31-37

佐々木和義 1991 PBD ウィタールカンファレンス「リハビリテーションと行動療法」神奈川県総合リハビリテーションセンター

佐々木和義 根建金男 小川 亮 石川利江 福井 至 市川雅哉 越河房子 1990 スピーチ不安とテスト不安を対象とした認知行動変容の研究動向と課題 行動療法研究 16, 1, 46-65

白井利明 1988 現代青年の時間的展望の構造(1) 大阪教育大学紀要第Ⅳ部門 38, 2, 183-196

白井利明 1989 現代青年の時間的展望の構造(2) 大阪教育大学紀要第Ⅳ部門 38, 2, 193-196

白井利明 1990 現代青年の未来展望における対社会関与に関する研究(1) 大阪教育大学紀要第Ⅳ部門 39, 1, 59-73

白井利明 1991 青年期から中年期における時間的展望と時間的信念の関連 心理学研究 62, 4, 260-263

白井利明 小宮山 要 勝俣暎史 吉田昭久 守屋国光 植田千晶 都築学 1990 なぜいま時間的展望の研究か 日本心理学会第54回大会

Schotte, D. E., Cools, J., & Payvar, S. 1990 Problem-solving deficit in suicidal patient. *J. of Counseling Psychology*, 58, 5, 562-564

祐宗省三 原野広太郎 柏木恵子 春木 豊 1985 社会的学習理論の新展開 金子書房

Thorne, F. C. 1948 Principles of directive counseling and psychotherapy. *American Psychologist*, 3, 160-166 (伊東博訳編 1965 カウンセリングの方法 誠信書房)

都築学 1982 時間的展望に関する文献的研究 教育心理学研究 30, 1, 73-86

都築学 1990 安心, 不安についての意識からみた時間的展望 日本教育心理学会第32回総会論文集 14-1454

Wang, C., & Horng, P. 1990 Expert and novice differences in managerial problem solving. The 22nd International Congress of Applied Psychology.

Williams, S. 1991 The role of perceived self-efficacy on the health habits of females. The Australian Psychological Society 21 th Annual Conference.

はやし きよし (心理学)

たきもと たかお (心理学)